

市民意識調査報告書

令和 5 年 3 月

総務部企画政策課

目次

1. 調査の概要.....	3
2. 調査結果の分析.....	4
2-1 八街市全般のことについて.....	4
(1) 八街市のイメージ・愛着等.....	4
(2) 施策ごとの満足度・重要度.....	6
(3) 市への定住意向と理由.....	9
2-2 市の将来像と今後重要と考える施策について.....	11
(1) 今後のまちづくりの視点と将来像.....	11
(2) 子育て・高齢者福祉分野の取組.....	12
(3) 移住定住・関係人口分野の取組.....	14
(4) しごと・経済分野の取組.....	16
(5) まちづくり分野の取組.....	17
2-3 八街駅周辺の機能形成と市内の公共交通について.....	19
(1) 八街駅周辺の機能形成.....	19
(2) 市内の公共交通について.....	20
2-4 今後の公共施設と市民サービスのあり方について.....	22
2-5 新型コロナウイルス感染症の影響等について.....	24
2-6 回答者について.....	27

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

市政に対する市民ニーズや市の取組の評価に関する市民意向を把握し、本市の現状及び課題を抽出するために、市民意識調査を実施した。

(2) 調査の実施概要

①調査項目

- 八街市全般のことについて
- 市の将来像と今後重要と考える施策について
- 八街駅周辺の機能形成と市内の公共交通について
- 今後の公共施設と市民サービスのあり方について
- 新型コロナウイルス感染症の影響等について

②調査対象

市内在住の18歳以上の男女3,000人

③調査時期

発送日 10月1日

締切日 10月31日

④調査方法

郵送による調査票の配布、回収（業務委託による実施）

⑤回収結果

配布数 3,000票

有効回収数 942票

有効回収率 31.9%

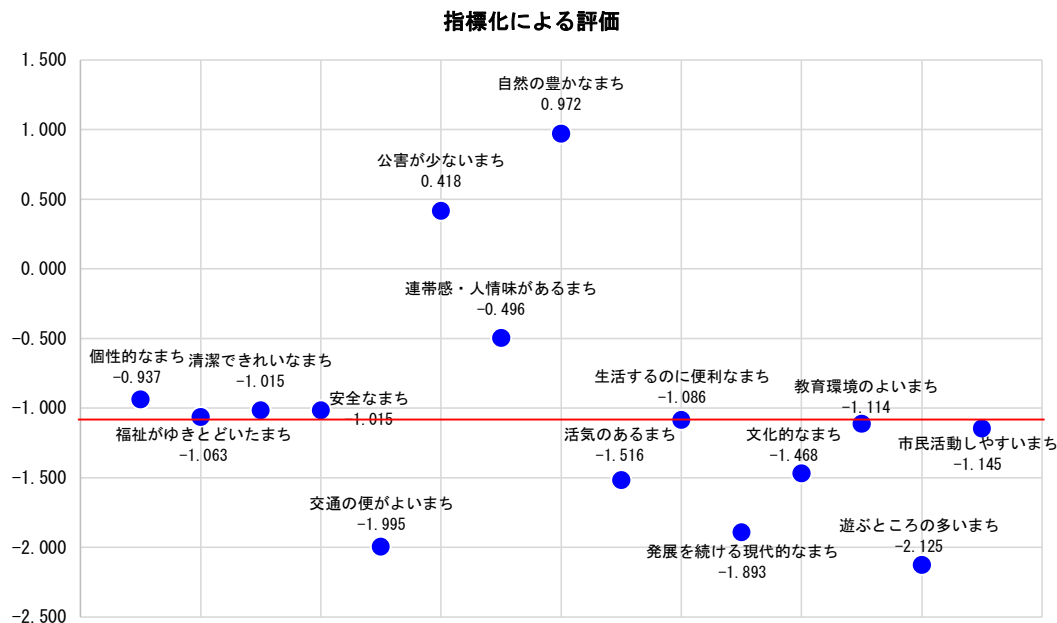
2. 調査結果の分析

2-1 八街市全般のことについて

(1) 八街市のイメージ・愛着等

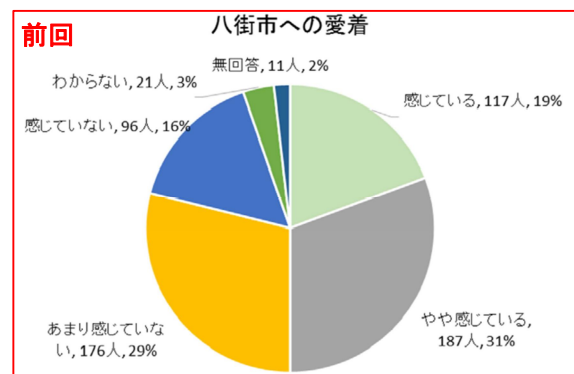
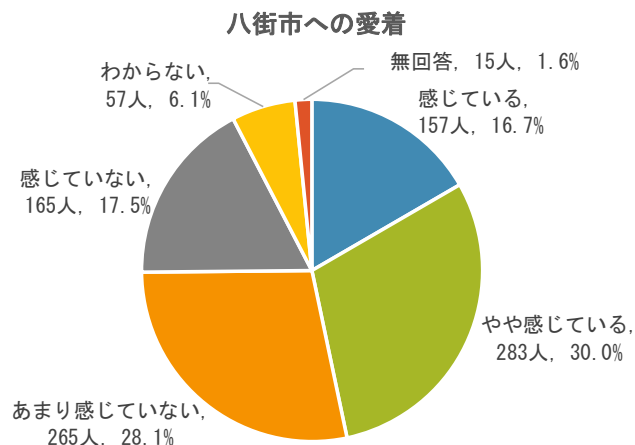
問 1. 八街市のイメージ

- ・「そう思う」×3、「ややそう思う」×1、「さほど思わない」×-1、「思わない」×-3 で指標化した結果をみると、プラスの指標となったものは、「自然の豊かなまち (0.972)」「公害が少ないまち (0.418)」の2項目であった。
- ・マイナスの指標のなったもののなかでは、「遊ぶところの多いまち (-2.125)」が最も低く、次いで「交通の便がよいまち (-1.995)」「発展を続ける現代的なまち (-1.893)」が低くなっている。



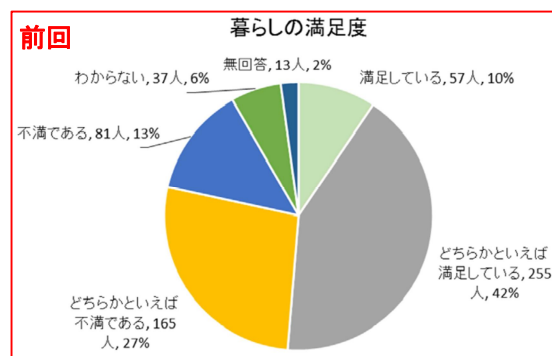
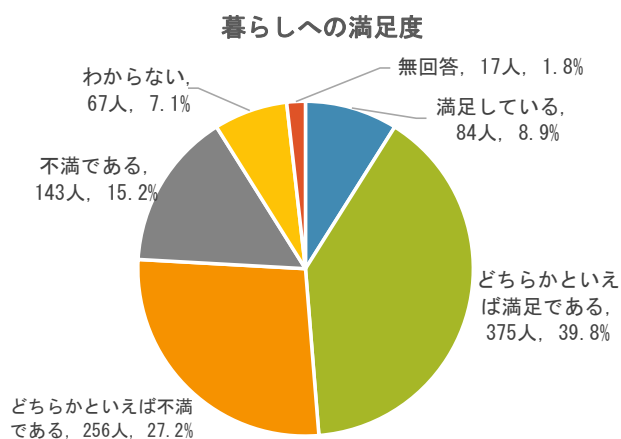
問 2. 八街市への愛着

- ・愛着を「やや感じている」が 30.0%で最も多い。
- ・「感じている」「やや感じている」あわせて 46.7%で、「感じていない」「あまり感じていない」あわせた 45.6%を上回っている。
- ・前回調査は、「感じている」「やや感じている」あわせて 50%で、今回やや減少している。



問 3. 現在の暮らしの満足度

- ・現在の暮らしに「どちらかといえば満足している」が 39.8%で最も多い。
- ・「満足している」「どちらかといえば満足している」あわせて 48.7%で、「不満である」「どちらかといえば不満である」あわせた 42.4%を上回っている。
- ・前回調査は、「満足している」「どちらかといえば満足している」あわせて 52%で、今回やや減少している。



(2) 施策ごとの満足度・重要度

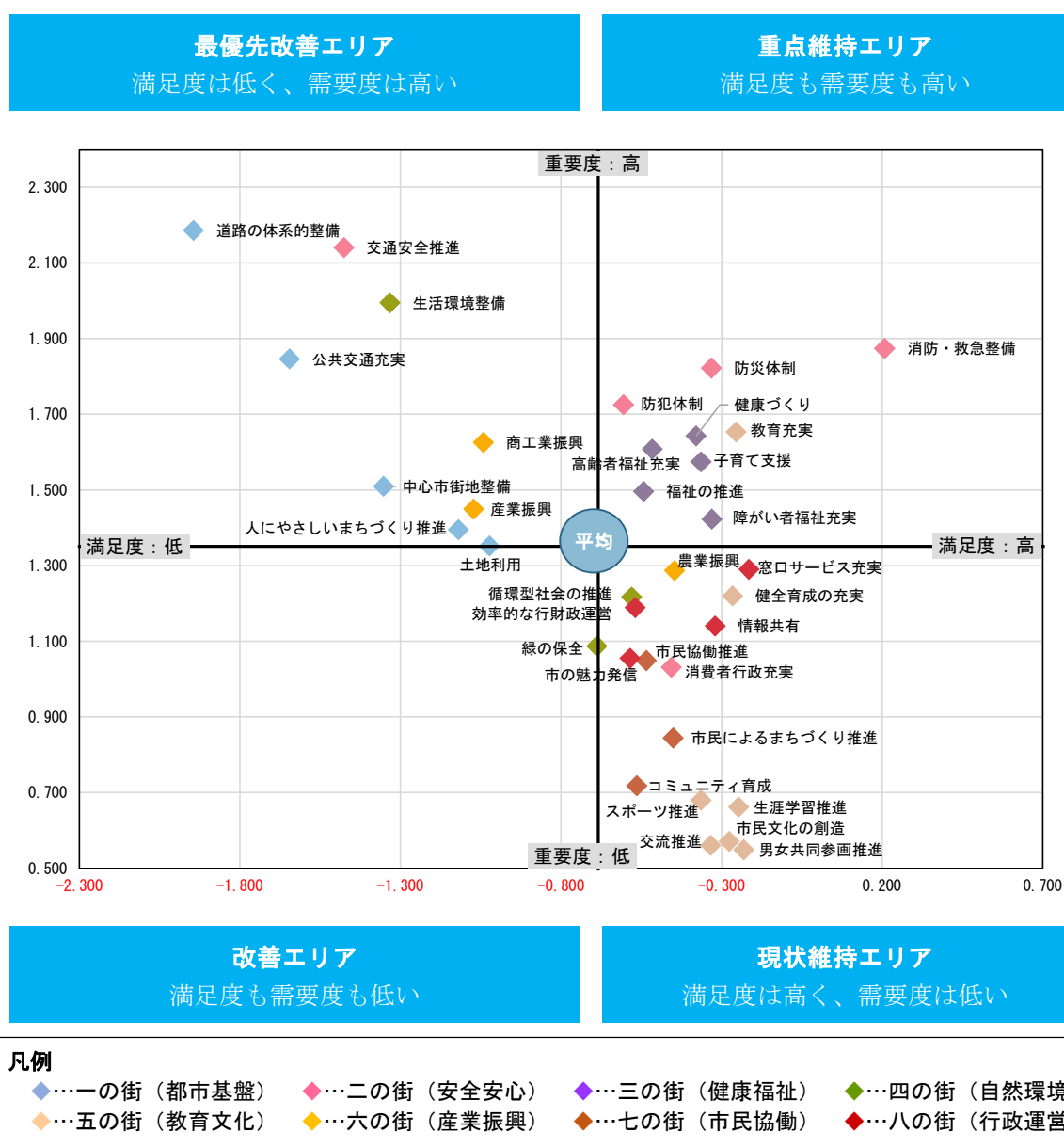
問 4-1. 施策ごとの満足度・重要度

① 満足度

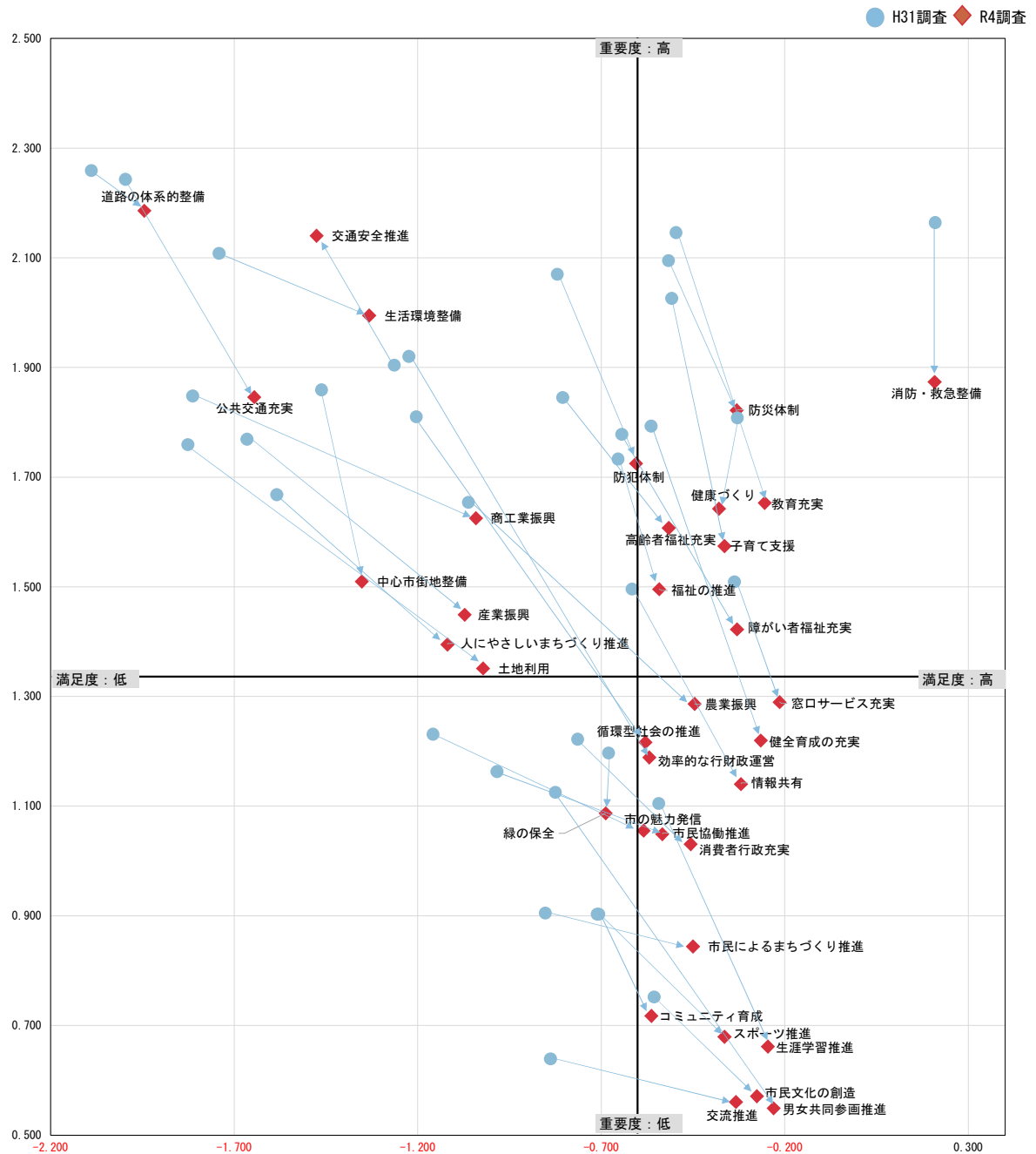
・「満足」×3、「やや満足」×1、「やや不満」×-1、「不満」×-3で指標化した結果をみると、プラスの指標となったものは、「消防救急体制 (0.208)」のみで、次いで「窓口サービス充実 (-0.214)」「男女共同参画社会推進 (-0.230)」の指標が高かった。

② 重要度

・「重要」×3、「やや重要」×1、「やや重要でない」×-1、「重要でない」×-3で指標化した結果をみると、「道路の体系的整備 (2.186)」で最も高く、次いで「交通安全の推進 (2.140)」「生活環境整備 (1.995)」の指標が高かった。



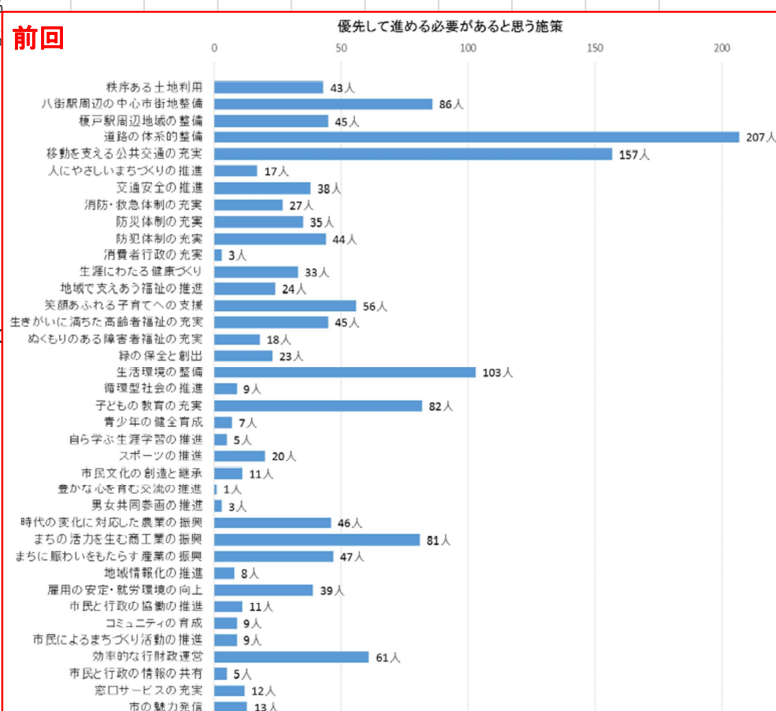
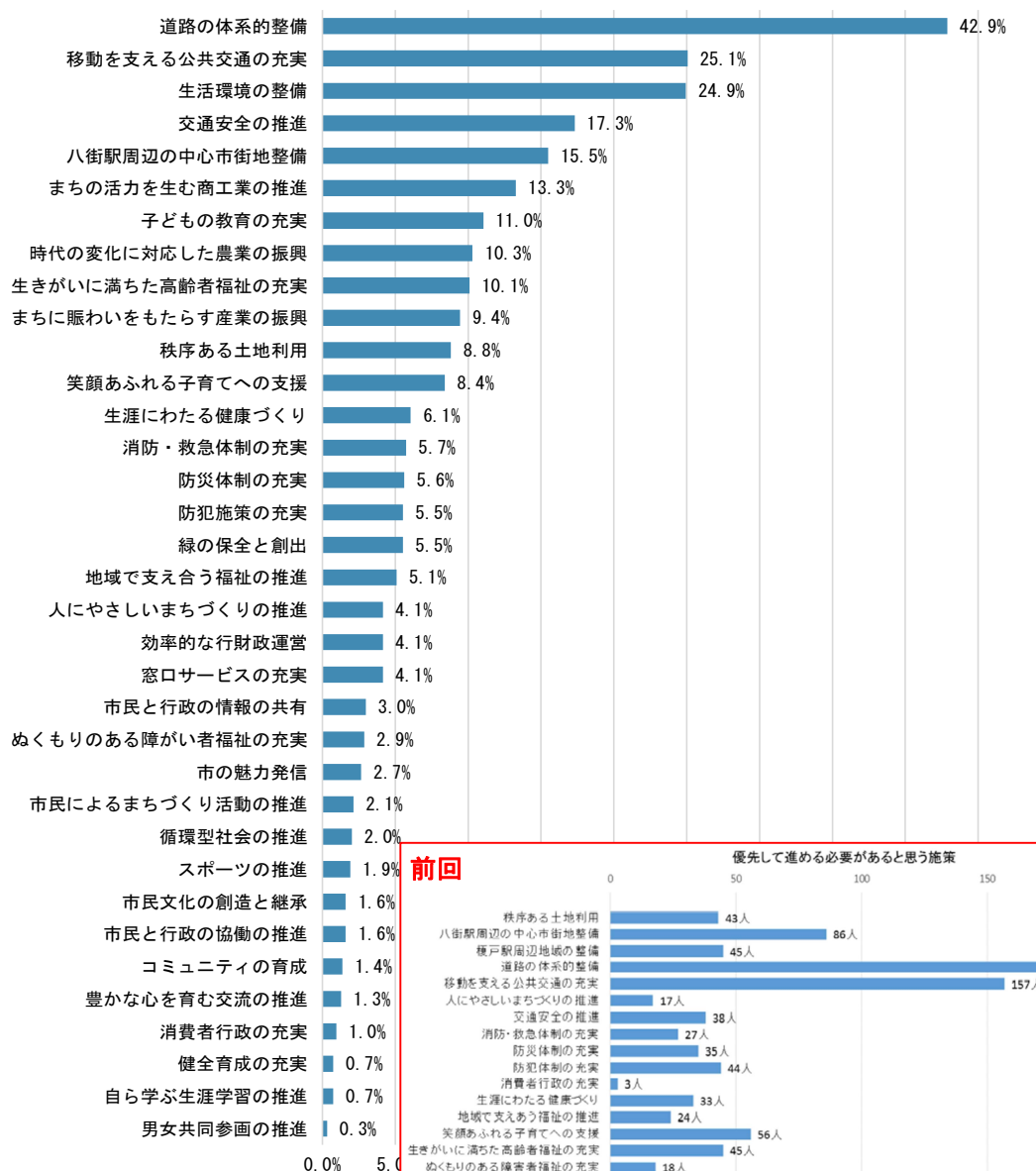
- ・前回調査の満足度・重要度を比較すると、多くの分野で満足度が上がり、重要度が下がるという結果（左上から右下への矢印）となった。
 - ・そのなかで、「交通安全の推進」は、満足度が下がり重要度が上がる（矢印の向きが逆）結果となっていることが着目される。
- （令和３年の下校途中の児童死傷事故の影響の可能性がある）



問 4-2. 優先して進める必要がある施策

- ・「道路の体系的整備」が 42.9%で最も多く、次いで「移動を支える公共交通の充実」が 25.1%、「生活環境の整備」が 24.9%、「交通安全の推進」が 17.3%、「八街駅周辺の中心市街地整備」が 15.5%で多くなっている。
- ・前回調査と上位3項目は同様であったが、「交通安全の推進」が前回 16 位から4位となったことが着目される。

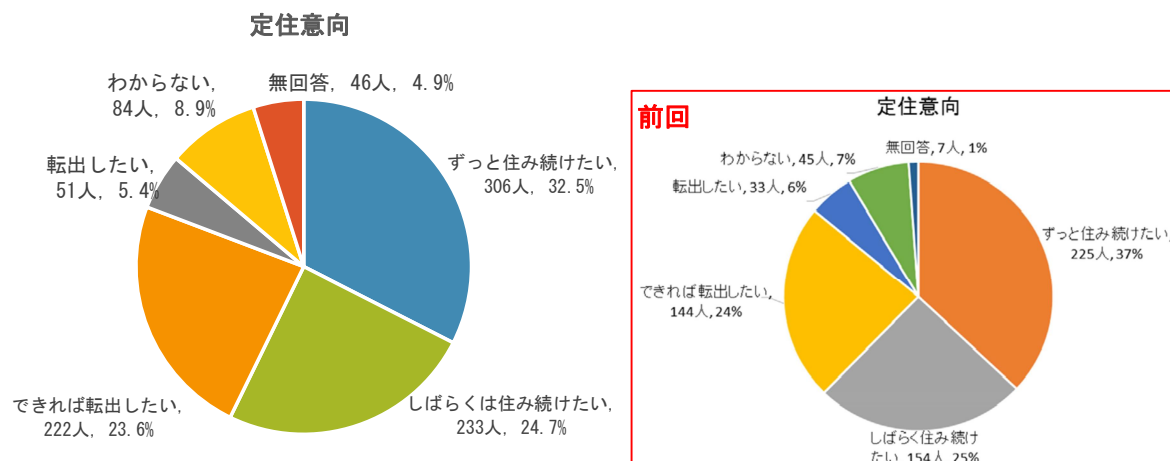
優先して進める必要があると思う施策



(3) 市への定住意向と理由

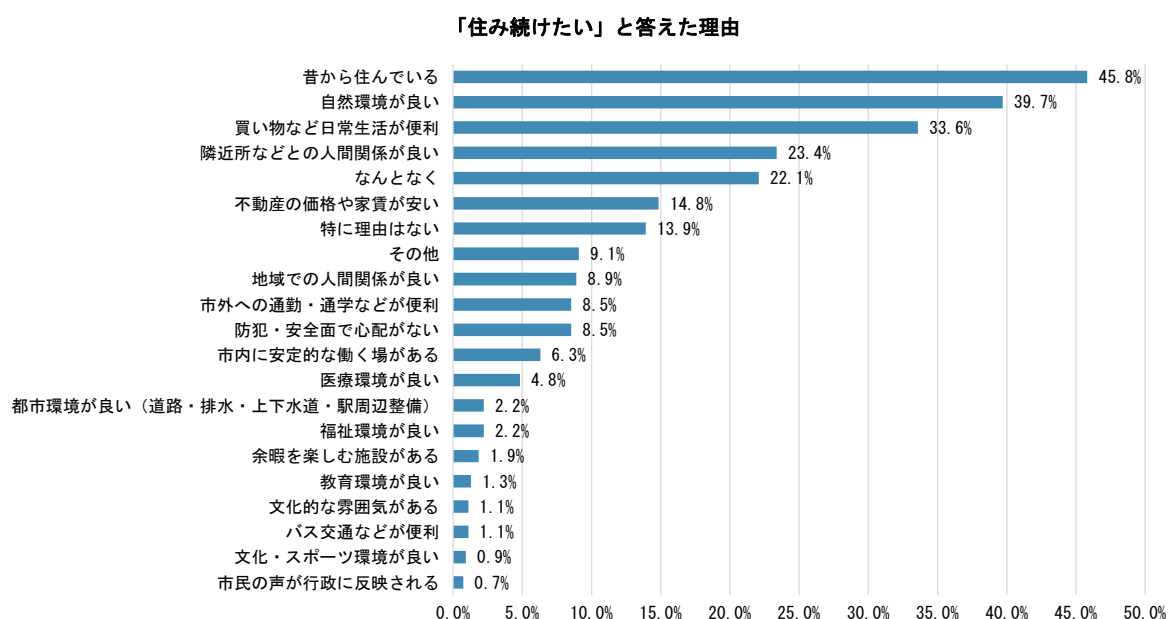
問 5-1. 定住意向

- ・「ずっと住みたい」が 32.5%で最も多い。
- ・「ずっと住みたい」「しばらくは住みたい」あわせて 57.2%で、「転出したい」「できれば転出したい」あわせた 29.0%を上回っている。
- ・前回調査は、「ずっと住みたい」「しばらくは住みたい」あわせて 62%で、今回やや減少している。



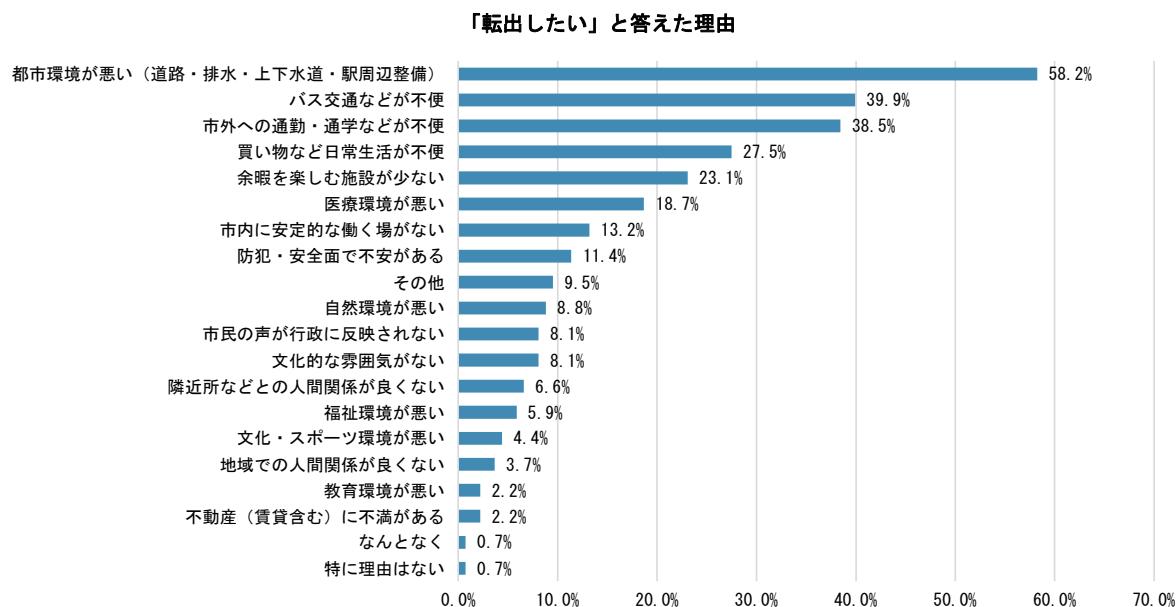
問 5-2. 住み続けたい理由

- ・「昔から住んでいる」が 45.8%で最も多く、次いで「自然環境が良い」が 39.7%、「買い物など日常生活が便利」が 33.6%、「隣近所などとの人間関係が良い」が 23.4%、「なんとなく」が 22.1%で多くなっている。
- ・前回調査と上位5項目は同様の結果となった。



問 5-3. 転出したい理由

- ・「都市環境が悪い（道路・排水・上下水道・駅周辺整備）」が 58.2%で最も多く、次いで「バス交通などが不便」が 39.9%、「市外への通勤・通学などが不便」が 38.5%、「買い物など日常生活が不便」が 27.5%、「余暇を楽しむ施設がない」が 23.1%で多くなっている。
- ・順位は異なるが、前回調査と上位4項目は同様の結果となった。「バス交通などが不便」が前回3位から2位となっている。

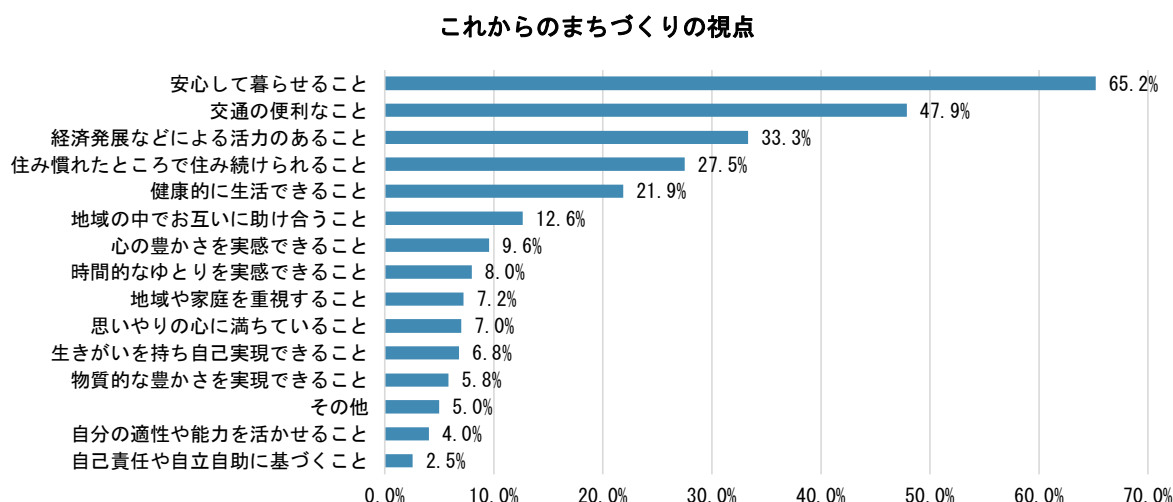


2-2 市の将来像と今後重要と考える施策について

(1) 今後のまちづくりの視点と将来像

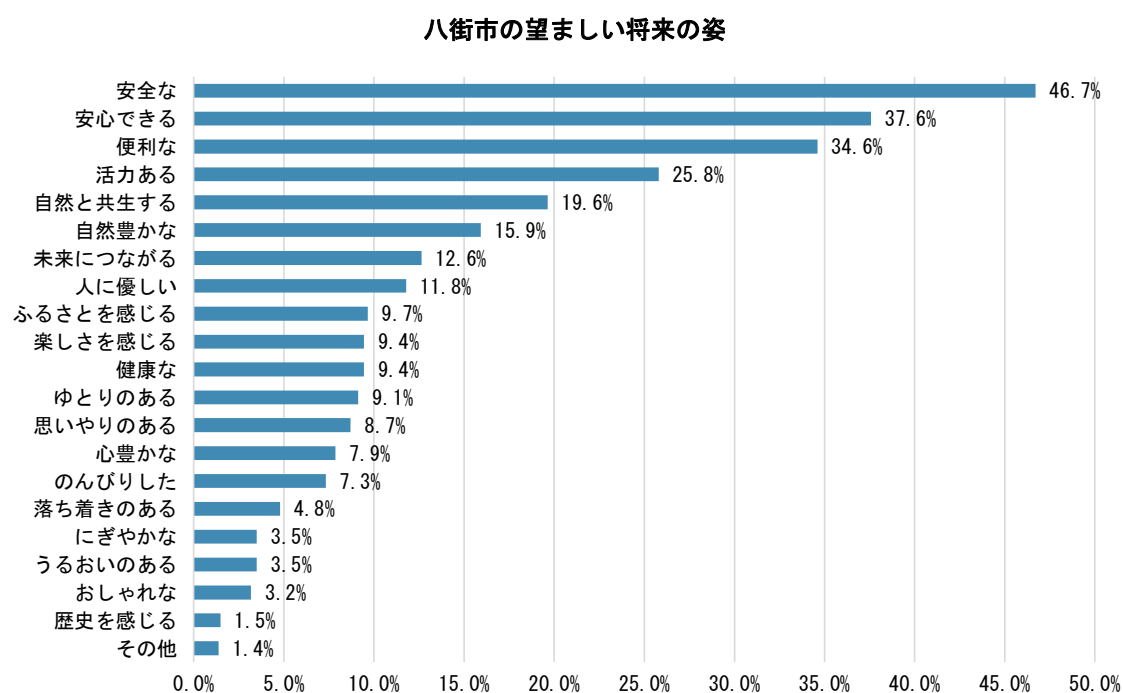
問 6. 今後のまちづくりの視点

- ・「安心して暮らせること」が 65.2%で最も多く、次いで「交通の便利なこと」が 47.9%、「経済発展などによる活力のあること」が 33.3%、「住み慣れたところで住み続けられること」が 27.5%、「健康的に生活できること」が 21.9%で多くなっている。
- ・前回調査と上位5項目がすべて同様となる結果となった。



問 7. 望ましい将来の姿

- ・「安全な」が 46.7%で最も多く、次いで「安心できる」が 37.6%、「便利な」が 34.6%、「活力ある」が 25.8%、「自然と共生する」が 19.6%で多くなっている。

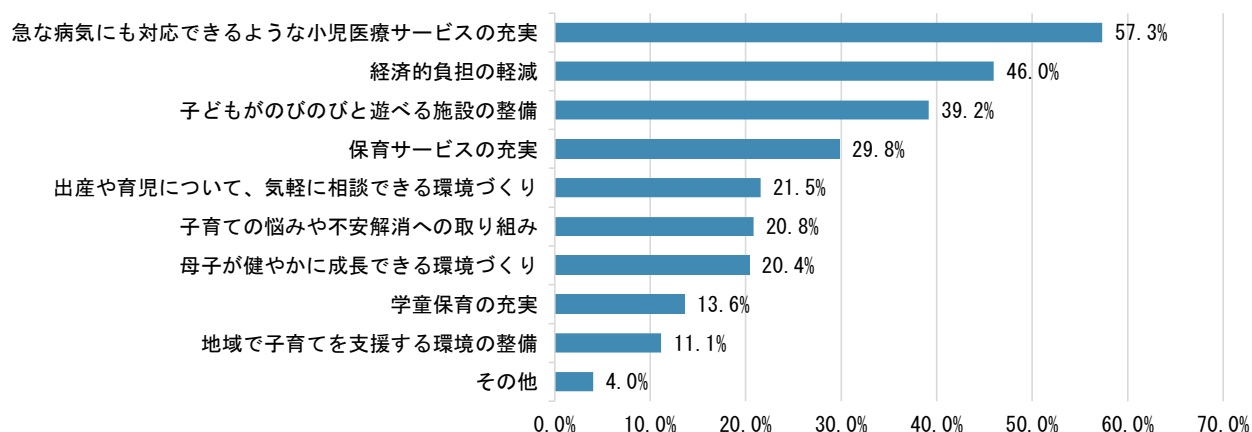


(2) 子育て・高齢者福祉分野の取組

問 8. 出産や子育てがしやすい環境を整える取組

- ・「急な病気にも対応できるような小児医療サービスの充実」が 57.3%で最も多く、次いで「経済的負担の軽減」が 46.0%、「子どもがのびのびと遊べる施設の整備」が 39.2%で多くなっている。

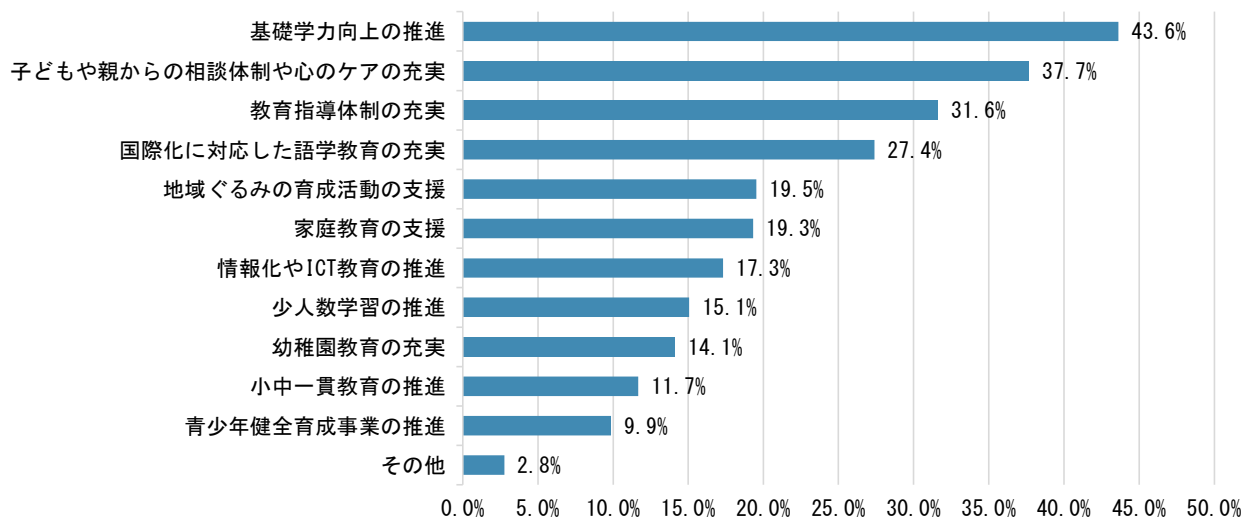
出産や子育てがしやすい環境を整えていくために重要なこと



問 9. 子どもの教育・健全育成の取組

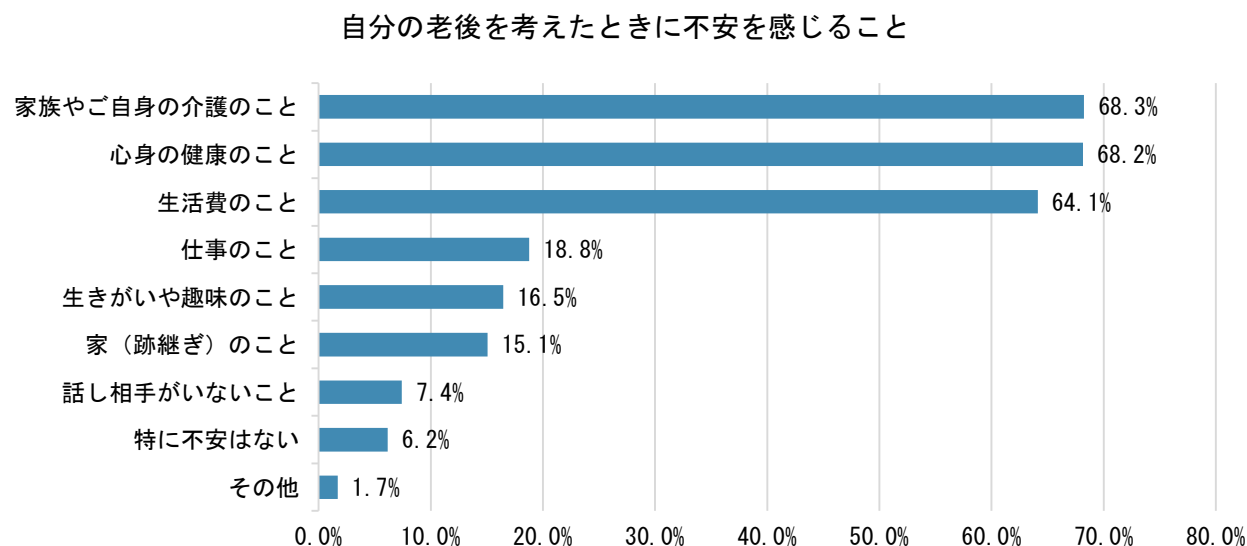
- ・「基礎学力向上の推進」が 43.6%で最も多く、次いで「子どもや親からの相談体制や心のケアの充実」が 37.7%、「教育指導体制の充実」が 31.6%で多くなっている。

子どもの教育・健全育成がしやすい環境を整えていくために重要なこと



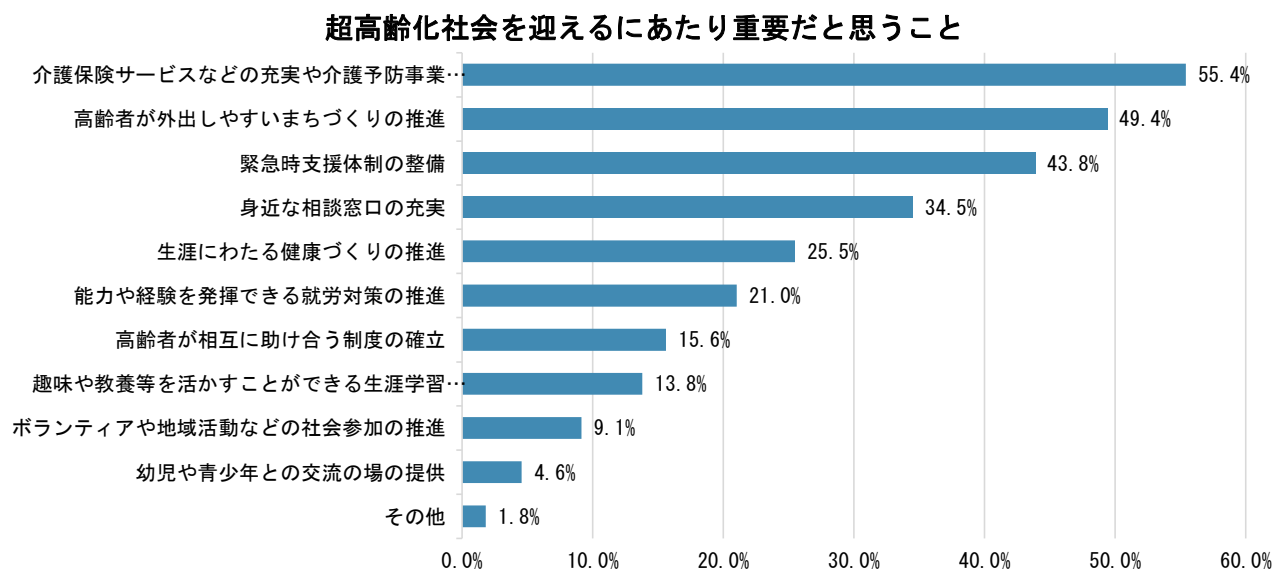
問 10. 自身の老後の不安

- ・「家族やご自身の介護のこと」が 68.3%で最も多く、次いで「心身の健康のこと」が 68.2%、「生活費のこと」が 64.1%で多くなっている。



問 11. 超高齢社会に対応する取組

- ・「介護保険サービスなどの充実や介護予防事業の推進」が 55.4%で最も多く、次いで「高齢者が外出しやすいまちづくりの推進」が 49.4%、「緊急時支援体制の整備」が 43.8%で多くなっている。

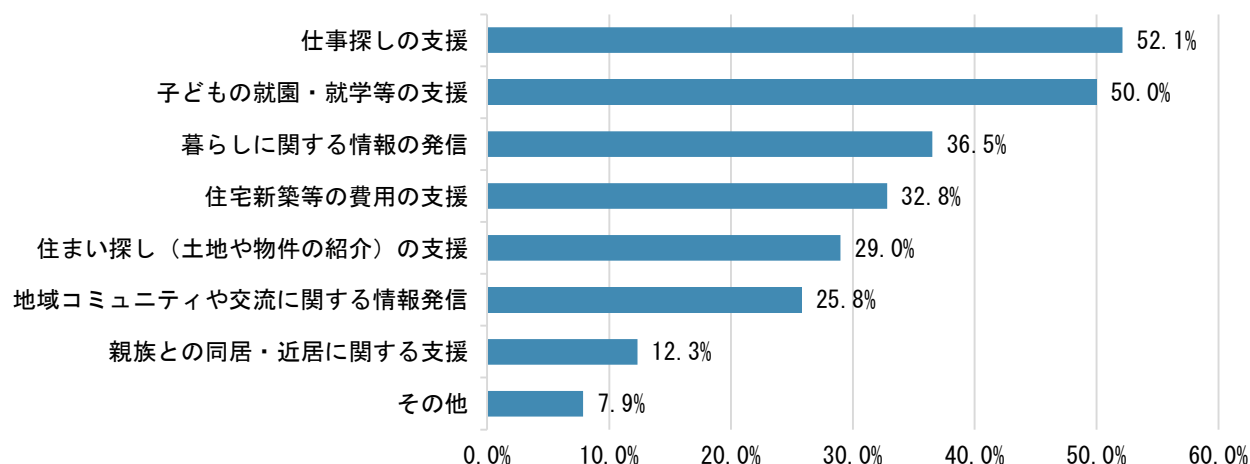


(3) 移住定住・関係人口分野の取組

問 12. 「住み続けたい」と思う人を増やす取組

・「仕事探しの支援」が 52.1%で最も多く、次いで「子どもの就園・就学等の支援」が 50.0%、「暮らしに関する情報の発信」が 36.5%で多くなっている。

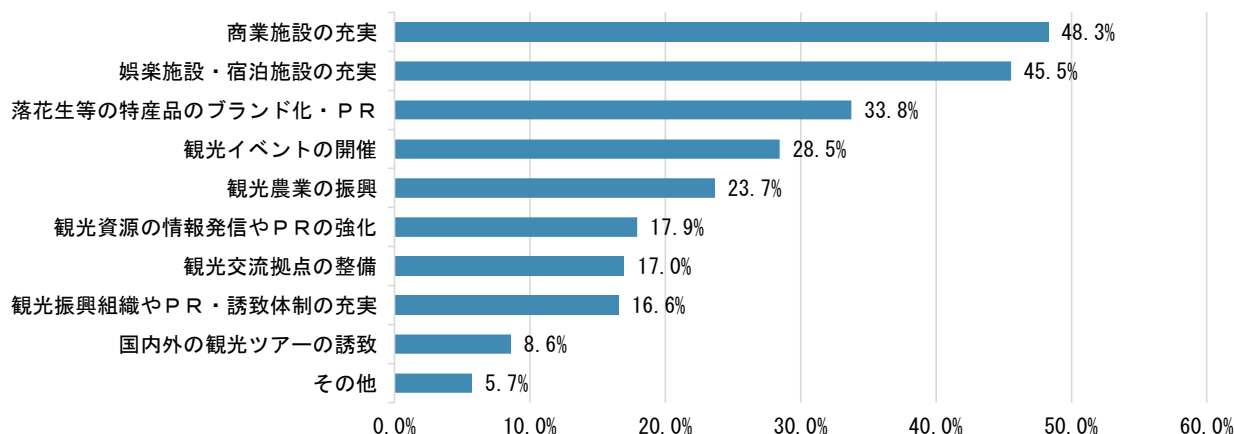
住み続けたい人を増やすために支援が必要だと思うこと



問 13. 「訪れたい」と思う人を増やす取組

・「商業施設の充実」が 48.3%で最も多く、次いで「娯楽施設・宿泊施設の充実」が 45.5%、「落花生等の特産品のブランド化・PR」が 33.8%で多くなっている。

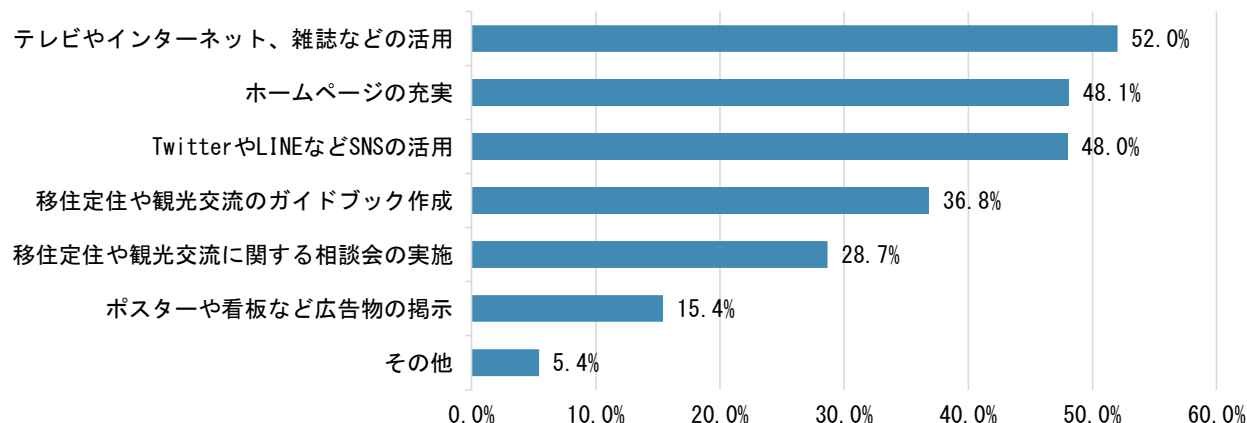
八街市に訪れたい人を増やすために重要だと思うこと



問 14. 市の魅力を周知するための手法

- ・「テレビやインターネット、雑誌などの活用」が 52.0%で最も多く、次いで「ホームページの充実」が 48.1%、「Twitter や LINE など SNS の活用」が 48.0%で多くなっている。

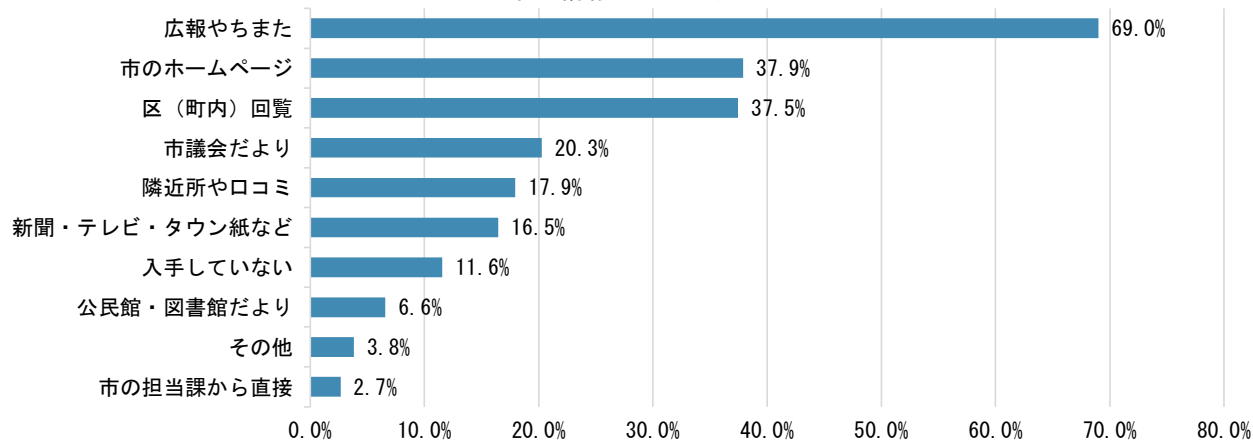
八街市の魅力を広く周知するために効果的な手法



問 15. 市の情報の入手手段

- ・「広報やちまた」が 69.0%で最も多く、次いで「市のホームページ」が 37.9%、「区（町内）回覧」が 37.5%で多くなっている。

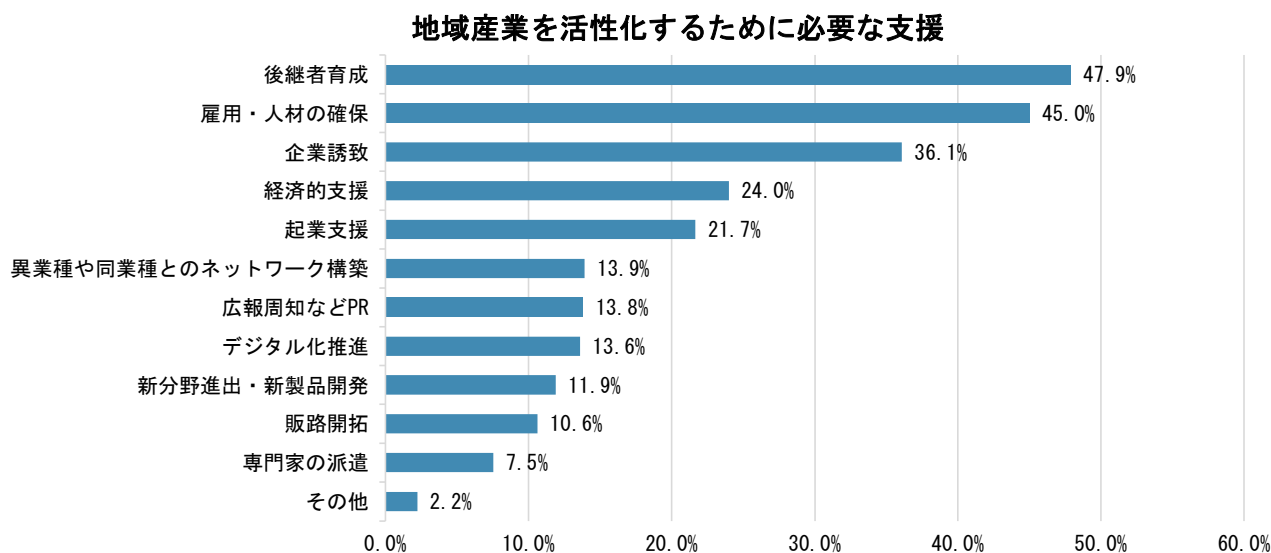
市の情報の入手方法



(4) しごと・経済分野の取組

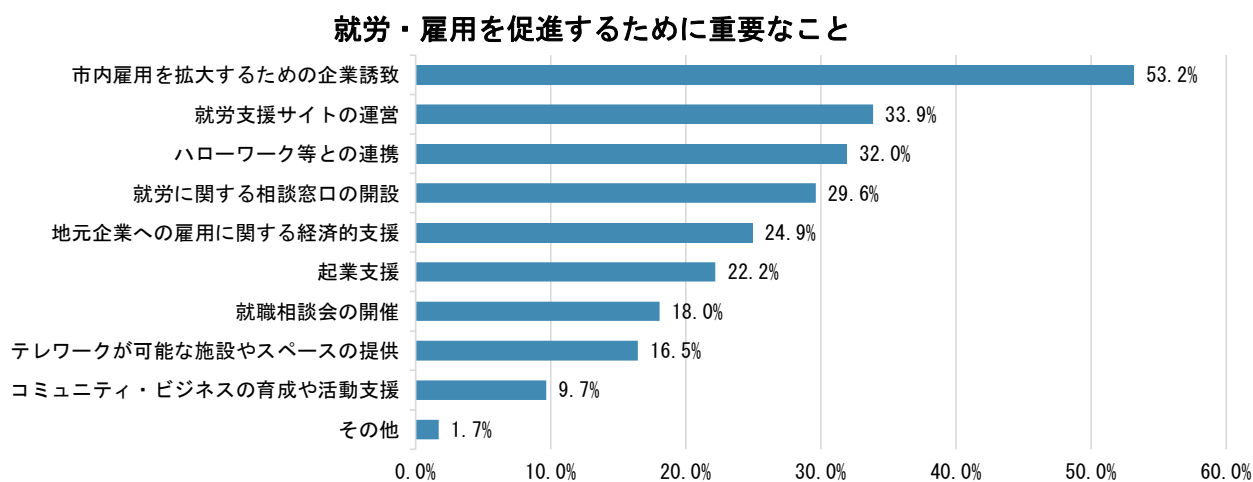
問 16. 地域産業を活性化するための支援

- ・「後継者育成」が 47.9%で最も多く、次いで「雇用・人材の確保」が 45.0%、「企業誘致」が 36.1%で多くなっている。



問 17. 就労・雇用を促進する取組

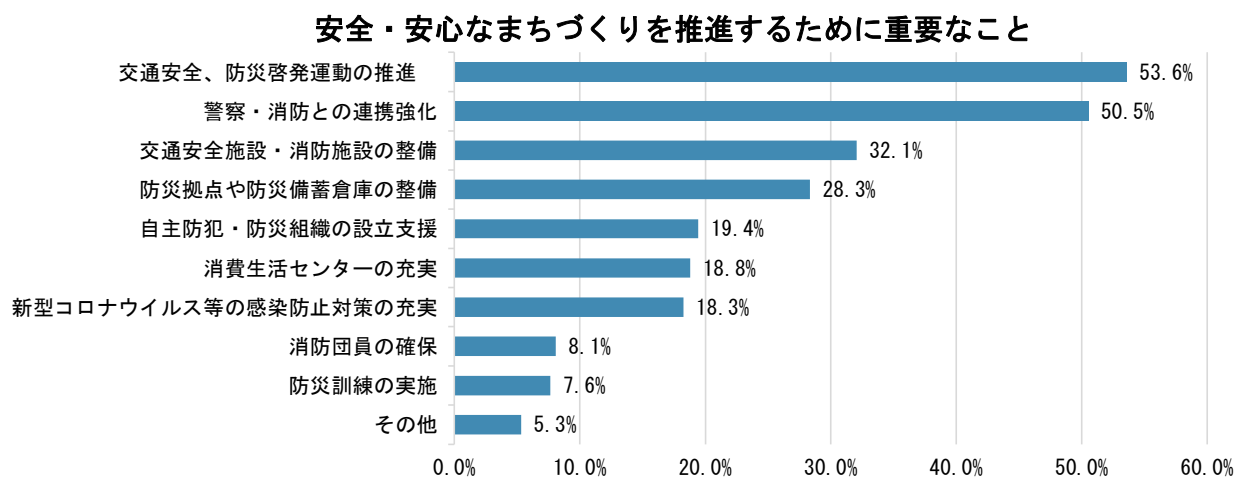
- ・「市内雇用を拡大するための企業誘致」が 53.2%で最も多く、次いで「就労支援サイトの運営」が 33.9%、「ハローワーク等との連携」が 32.0%で多くなっている。



(5)まちづくり分野の取組

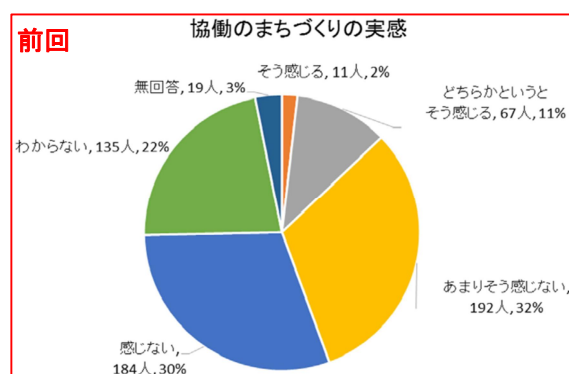
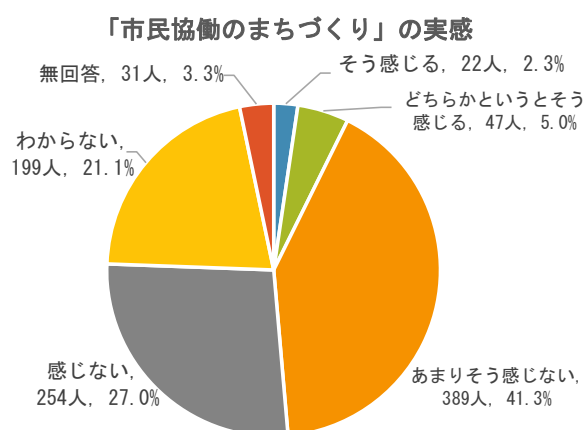
問 18. 安全・安心なまちづくりを推進する取組

- ・「交通安全、防災啓発運動の推進」が 53.6%で最も多く、次いで「警察・消防との連携強化」が 50.5%、「交通安全施設・消防施設の整備」が 32.1%で多くなっている。



問 19. 市民協働の進捗

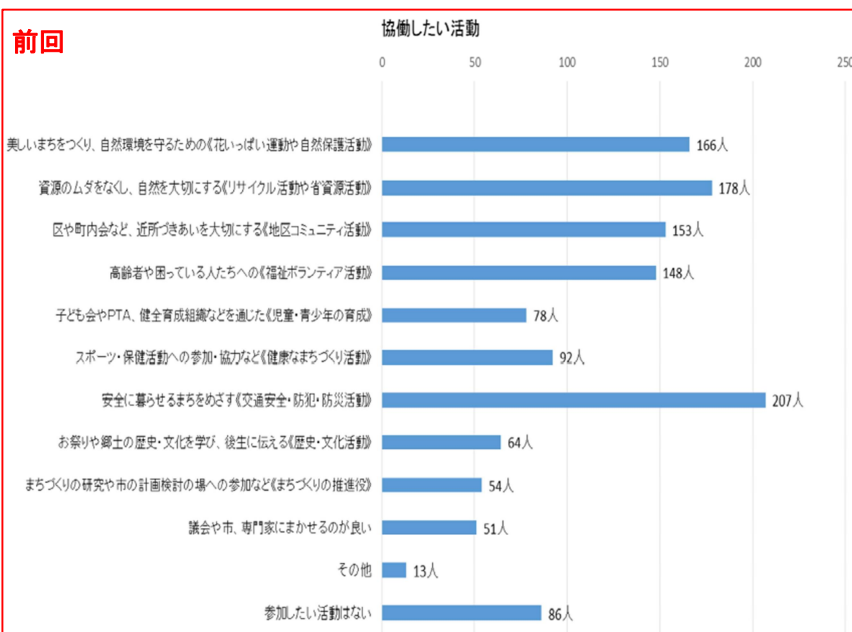
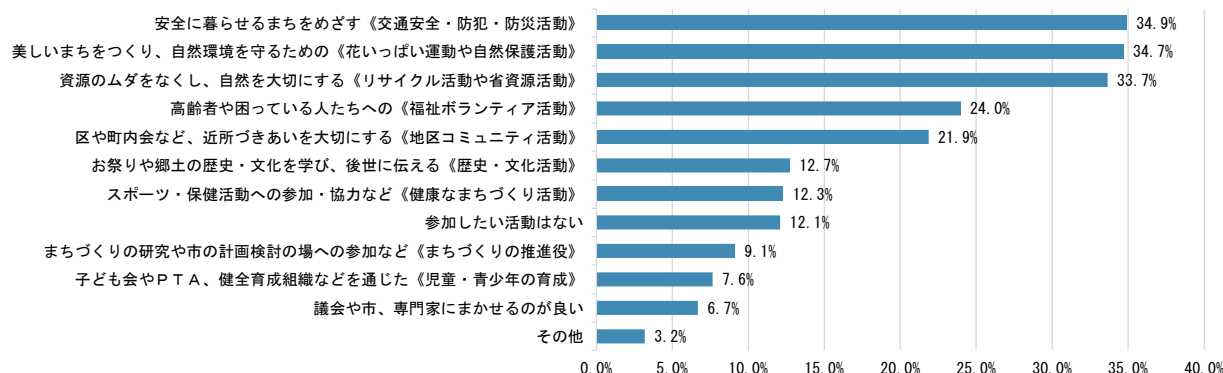
- ・市民協働が進んでいるかについて、「あまりそう感じない」が 41.3%で最も多い。
- ・「そう感じる」「どちらかというそう感じる」あわせて 7.3%で、「感じない」「あまりそう感じない」あわせた 68.3%を下回っている。
- ・前回調査は、「そう感じる」「どちらかというそう感じる」あわせて 13%で、今回やや減少している。



問 20. 協働のまちづくりで自身が行いたい活動

- ・「交通安全・防犯・防災活動」が34.9%で最も多く、次いで「花いっぱい運動や自然保護活動」が34.7%、「リサイクル活動や省資源活動」が33.7%で多くなっている。
- ・前回調査と、上位3位は同様となった。

協働のまちづくりにおいて取り組んでみたい活動

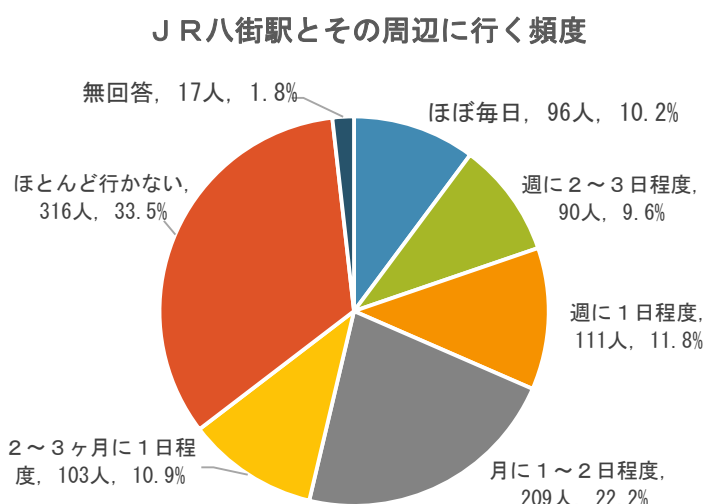


2-3 八街駅周辺の機能形成と市内の公共交通について

(1) 八街駅周辺の機能形成

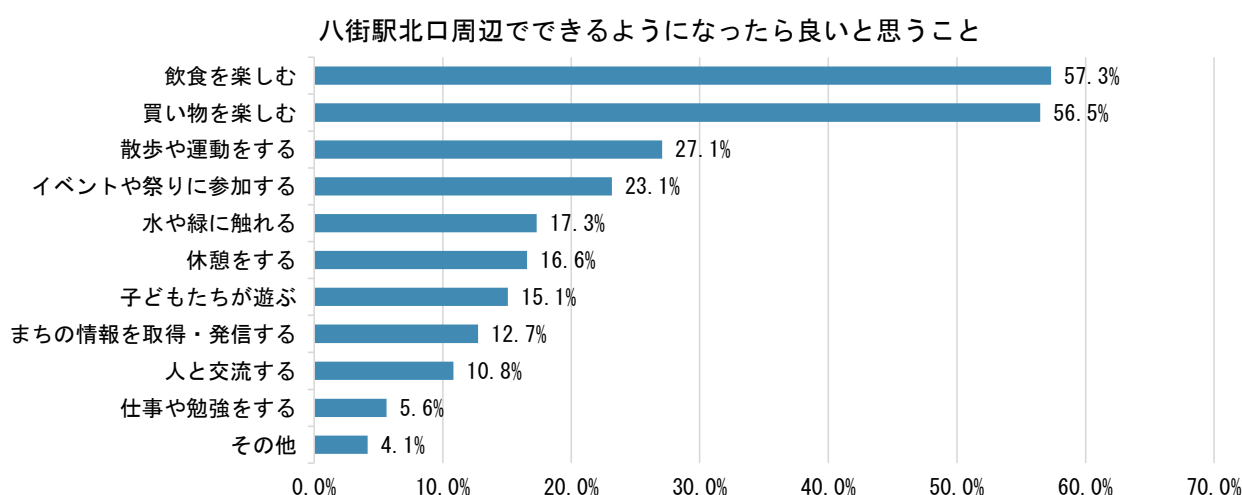
問 21. 八街駅またはその周辺に行く頻度

- ・「ほとんど行かない」が 33.5%で最も多く、次いで「月に1～2日程度」が 22.2%で多くなっている。



問 22. 八街駅北口周辺で何ができるようになったらよいか

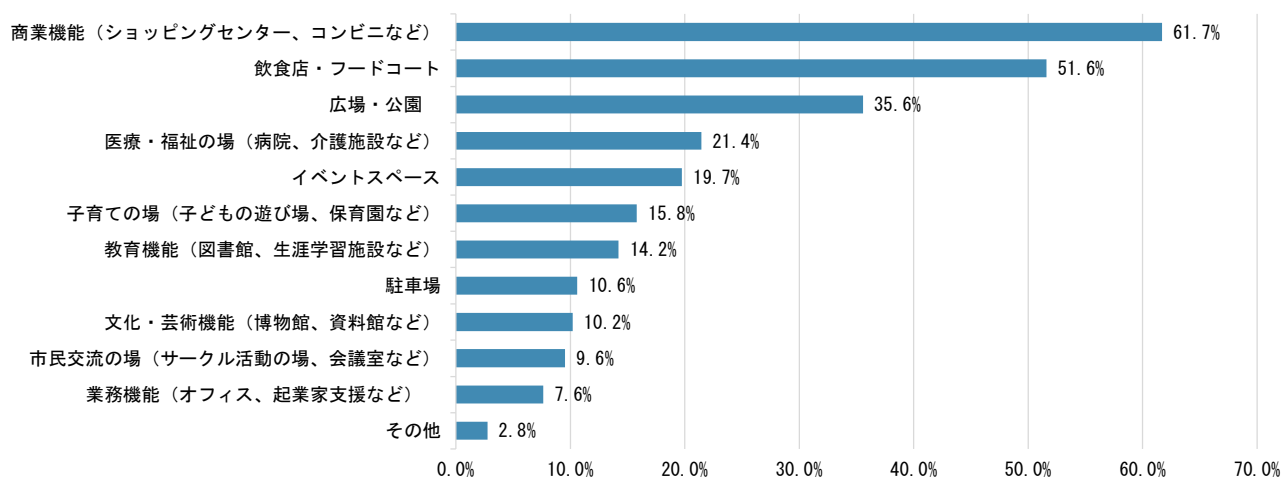
- ・「飲食を楽しむ」が 57.3%で最も多く、次いで「買い物を楽しむ」が 56.5%、「散歩や運動を楽しむ」が 27.1%、「イベントや祭りに参加する」が 23.1%で多くなっている。



問 23. にぎわいのある空間にするために必要な機能

- ・「商業機能（ショッピングセンター、コンビニなど）」が61.7%で最も多く、次いで「飲食店・フードコート」が51.6%、「広場・公園」が35.6%で多くなっている。

八街駅北口周辺をにぎわいのある空間にするために必要な機能・役割

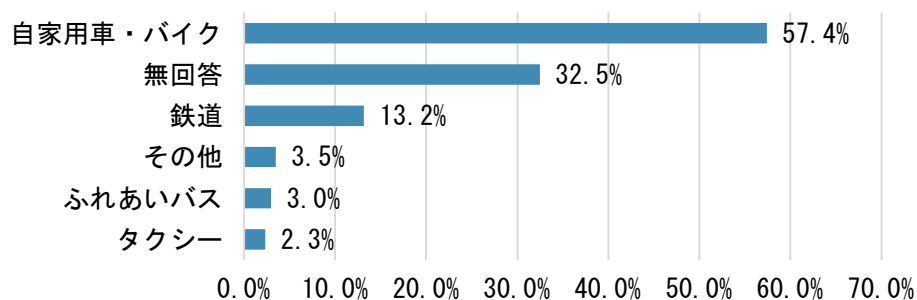


(2) 市内の公共交通について

問 25-1. 普段どのような交通手段を利用しているか

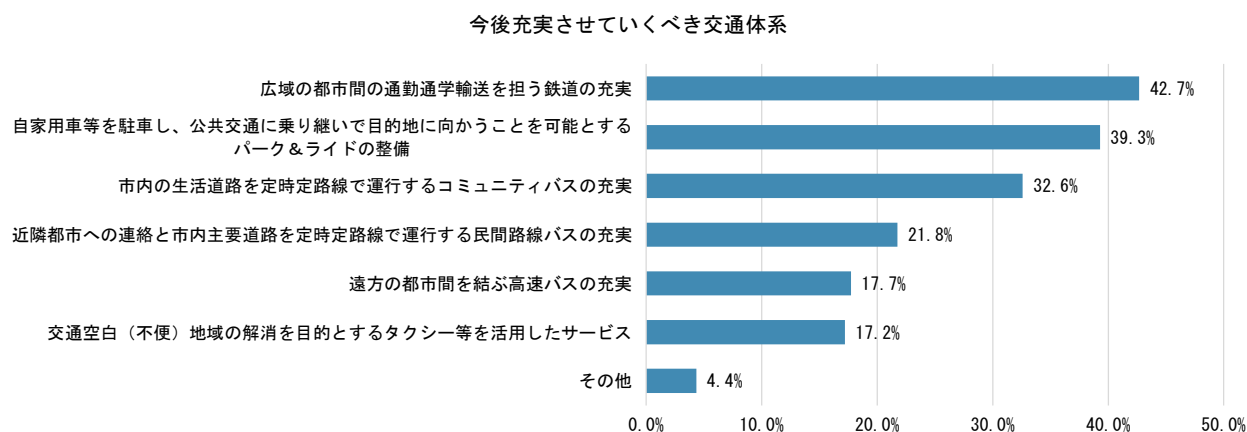
- ・「自家用車・バイク」が57.4%で最も多く、次いで「鉄道」が13.2%で多くなっている。

普段利用する交通手段



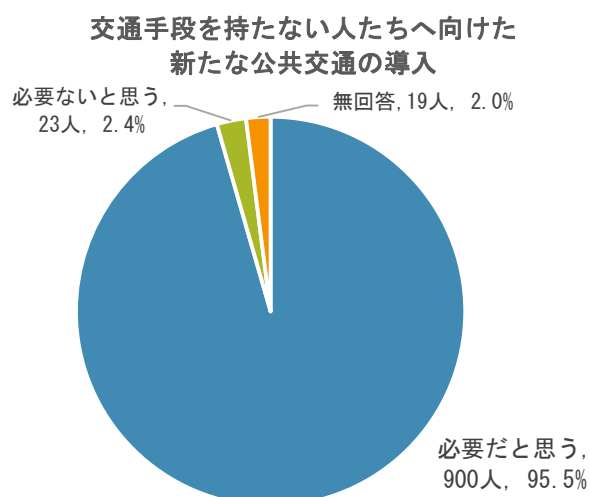
問 25-2. どのような交通体系を充実させていくことが重要か

- ・「広域の都市間の通勤通学輸送を担う鉄道の充実」が 42.7%で最も多く、次いで「パーク&ライドの整備」が 39.3%、「コミュニティバス（ふれあいバス）の充実」が 32.6%で多くなっている。
- ・「交通空白（不便）地域の解消を目的とするタクシー等を活用したサービス」は 17.2%にとどまっている。



問 26. 高齢者等を対象とした新たな公共交通導入の必要性

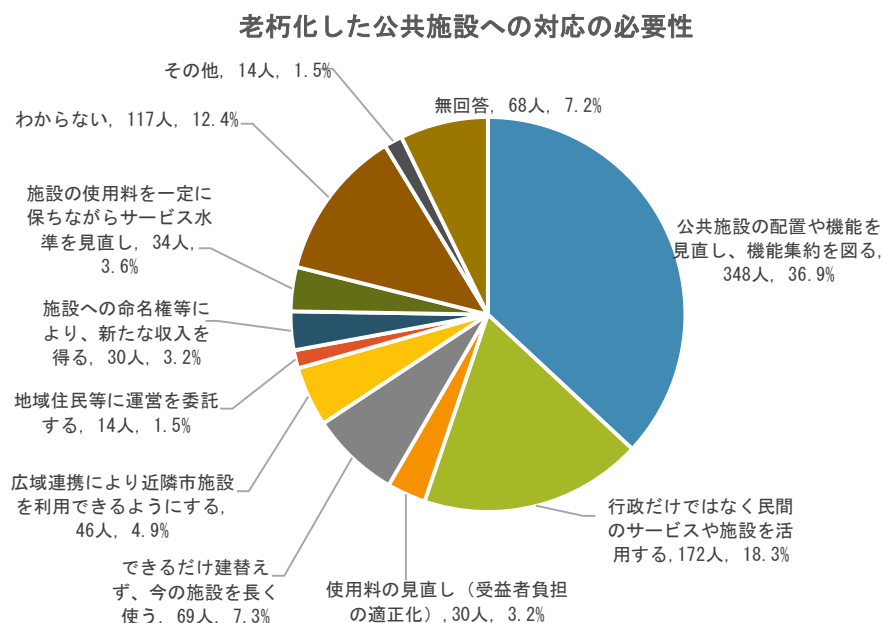
- ・「必要だと思う」が 95.5%で大半を占めている。



2-4 今後の公共施設と市民サービスのあり方について

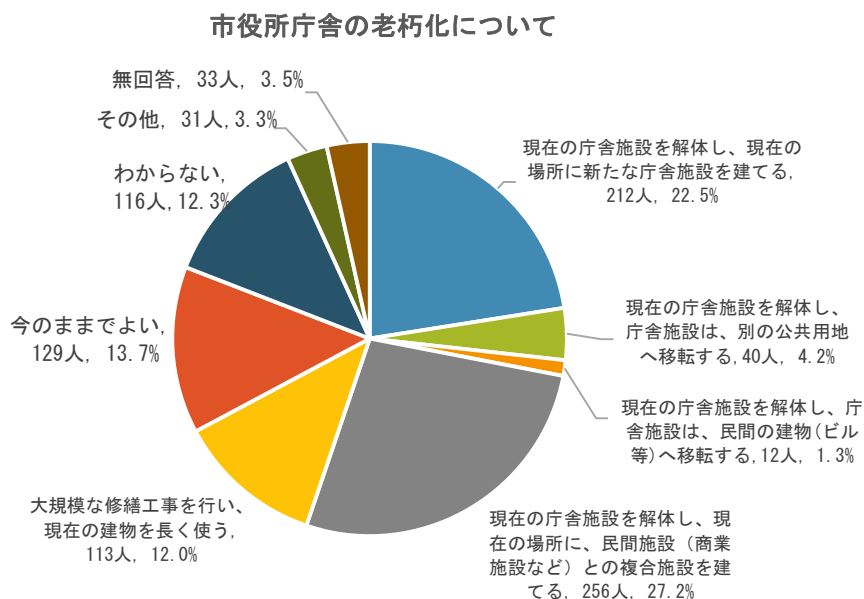
問 27. 老朽化する公共施設への対応について

- ・「公共施設の配置や機能を見直し、機能集約を図る」が 36.9%で最も多く、次いで「行政だけではなく民間のサービスや施設を活用する」が 18.3%で多くなっている。



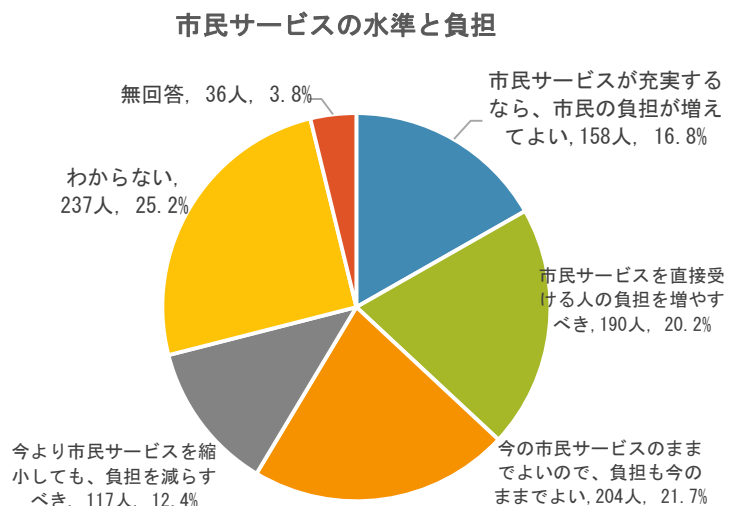
問 28. 庁舎施設の今後について

- ・「現在の庁舎施設を解体し、現在の場所に民間施設との複合施設を建てる」が 27.2%で最も多く、次いで「現在の庁舎施設を解体し、現在の場所に新たな庁舎施設を建てる」が 22.5%で多くなっている。



問 29. 市民サービスの水準と負担について

- ・「今の市民サービスのままでよいので、負担も今のままでよい」が 21.7%で最も多く、次いで「市民サービスを直接受ける人の負担を増やすべき」が 20.2%と多くなっている。

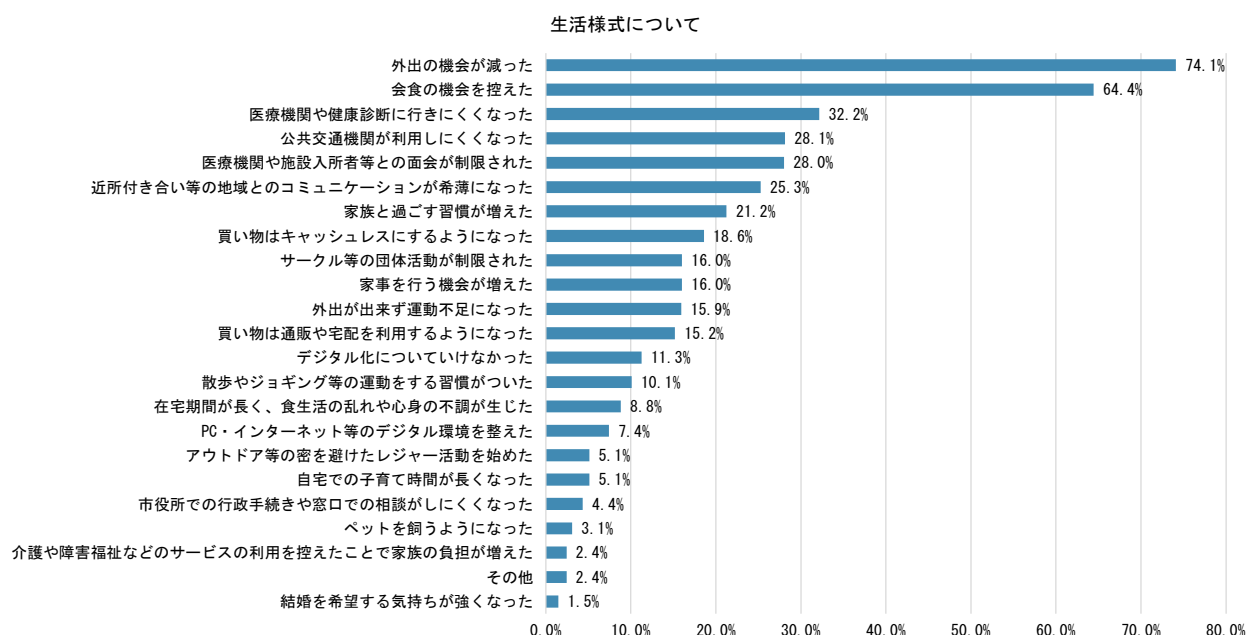


2-5 新型コロナウイルス感染症の影響等について

問 30. 生活の変化

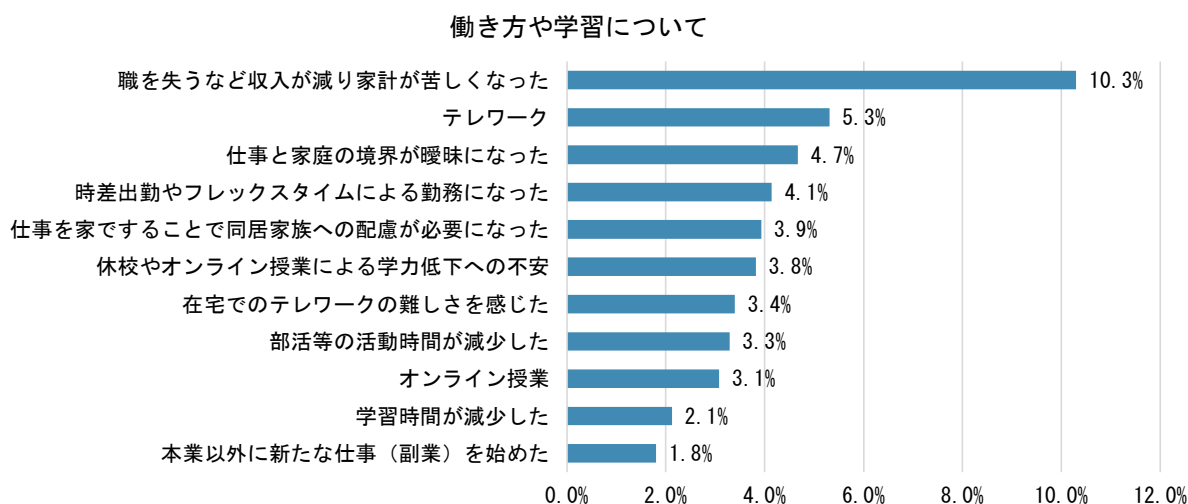
(生活様式)

- ・「外出の機会が減った」が 74.1%で最も多く、次いで「会食の機会を控えた」が 64.4%、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」が 32.2%、「公共交通機関が利用しにくくなった」が 28.1%、「医療機関や施設入所者等との面会が制限された」が 28.0%で多くなっている。



(働き方や学習)

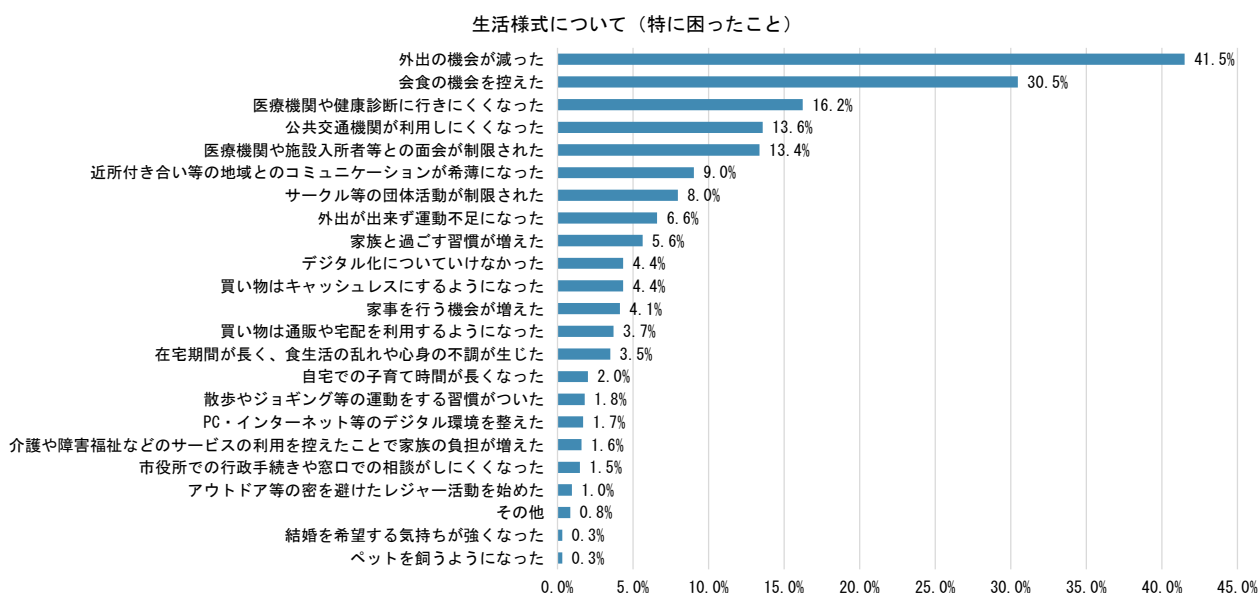
- ・「職を失うなど収入が減り家計が苦しくなった」が 10.3%で最も多く、次いで「テレワーク」が 5.3%、「仕事と家庭の境界が曖昧になった」が 4.7%で多くなっている。



問 31. 特に困ったこと

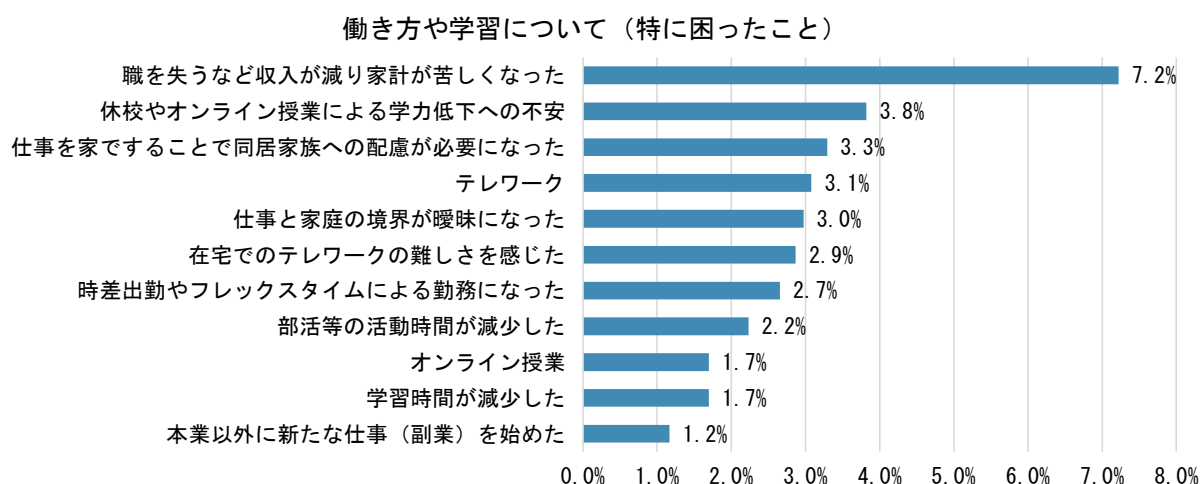
(生活様式)

- ・「外出の機会が減った」が 41.5%で最も多く、次いで「会食の機会を控えた」が 30.5%、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」が 16.2%で多くなっている。



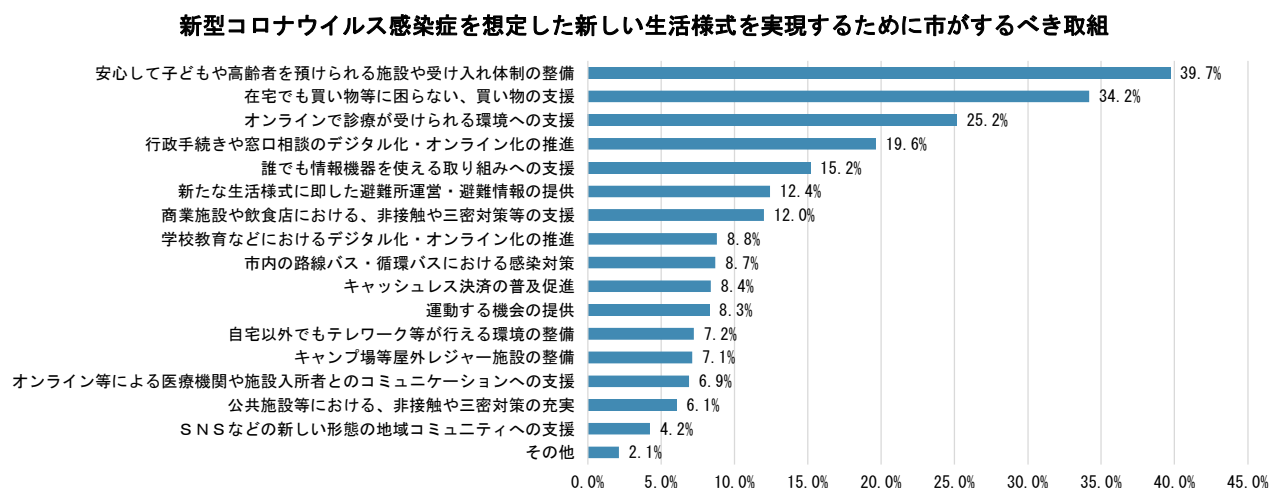
(働き方や学習)

- ・「職を失うなど収入が減り家計が苦しくなった」が 7.2%で最も多く、次いで「休校やオンライン授業による学力低下への不安」が 3.8%、「仕事を家ですることと同居家族への配慮が必要になった」が 3.3%で多くなっている。



問 32. 新しい生活様式の実現に向けた市の取組

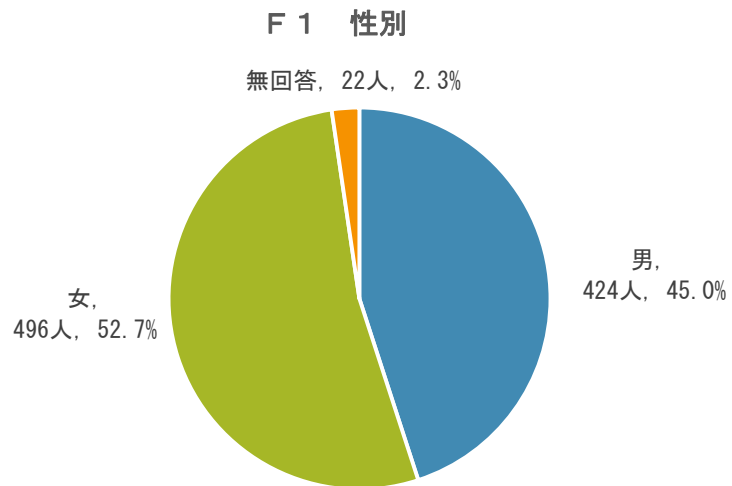
- ・「安心して子どもや高齢者を預けられる施設や受け入れ体制の整備」が 39.7%で最も多く、次いで「在宅でも買い物等に困らない、買い物の支援」が 34.2%、「オンラインで診療が受けられる環境への支援」が 25.2%、「行政手続きや窓口相談のデジタル化・オンライン化の推進」が 19.6%、「誰でも情報機器を使える取り組みへの支援」が 15.2%で多くなっている。



2-6 回答者について

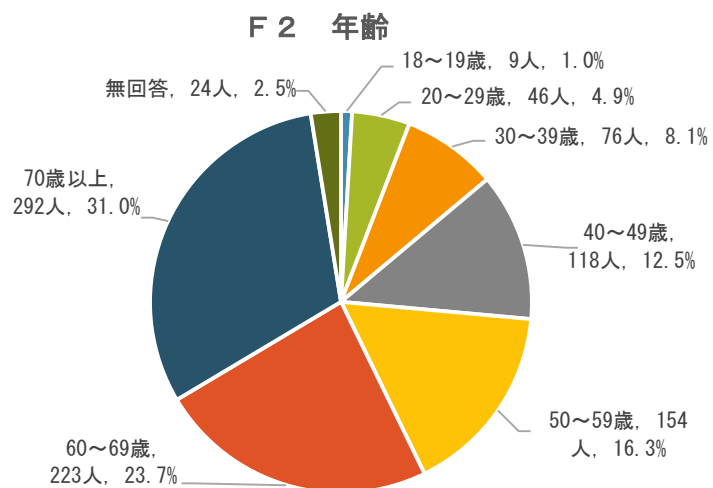
F1. 性別

- ・「女性」が 52.7%、「男性」が 45.0%となっている。



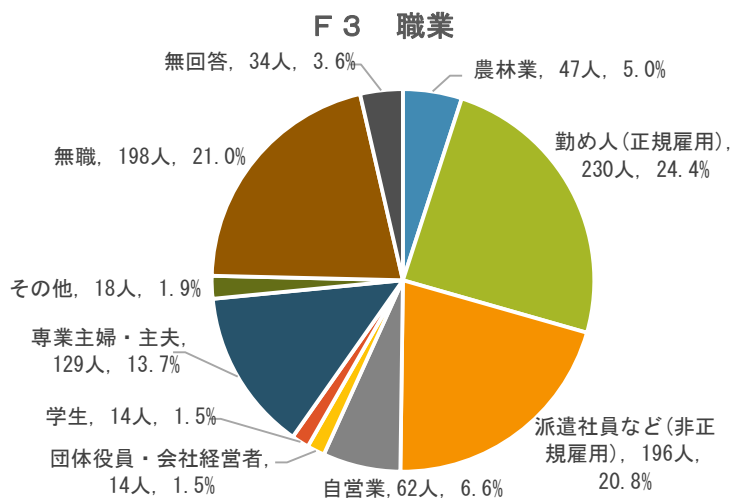
F2. 年齢

- ・「70 歳以上」が 31.0%と最も多く、次いで「60～69 歳」が 23.7%、「50～59 歳」が 16.3%となっている。



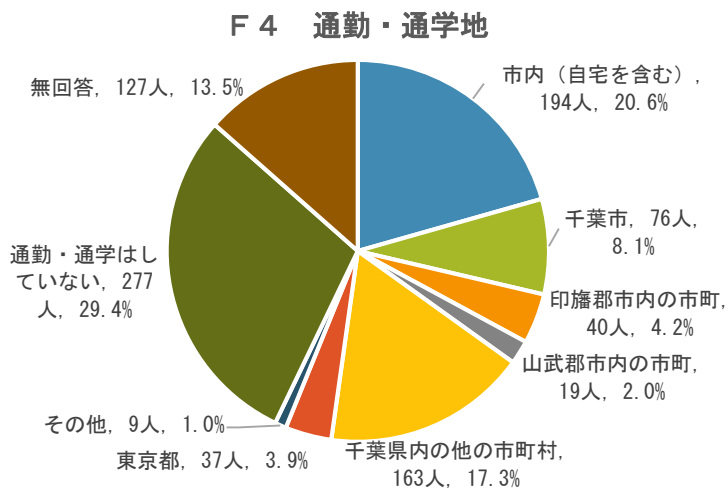
F3. 職業

- ・「勤め人(正規雇用)」が 24.4%と最も多く、次いで「無職」が 20.8%、「派遣社員など(非正規雇用)」が 20.8%となっている。



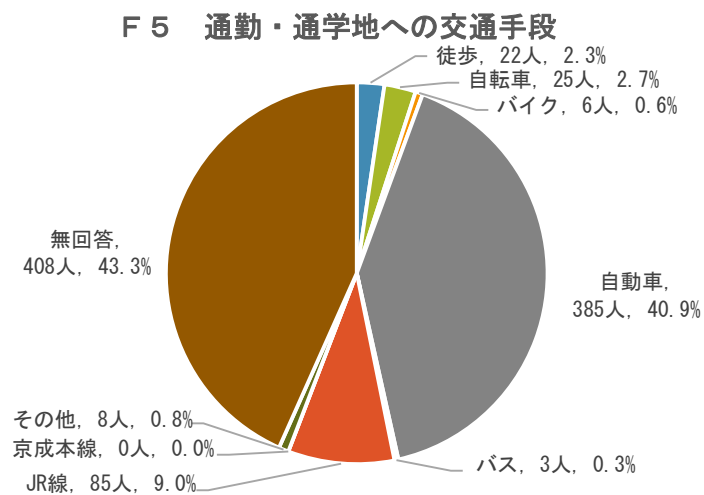
F4. 通勤・通学地

- ・「通勤・通学はしていない」が 29.4%と最も多く、次いで「市内(自宅を含む)」が 20.6%、「千葉県内の他の市町村」が 17.3%となっている。



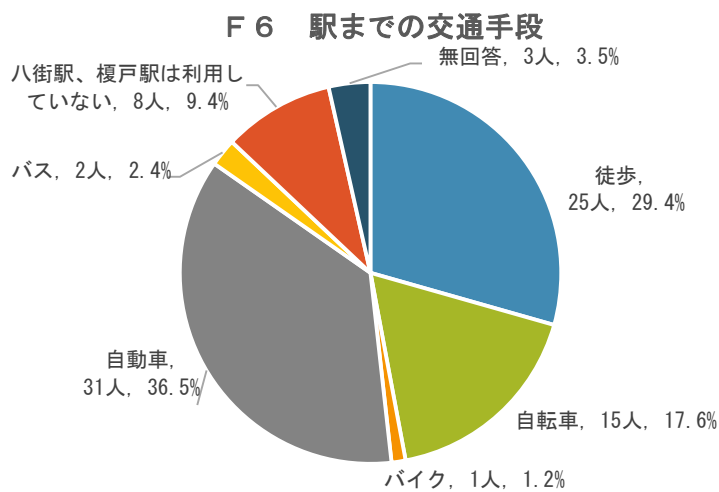
F5. 通勤・通学地への交通手段

- ・無回答を除くと「自動車」が40.9%と最も多く、次いで「JR線」が9.0%、「自転車」が2.7%と多くなっている。



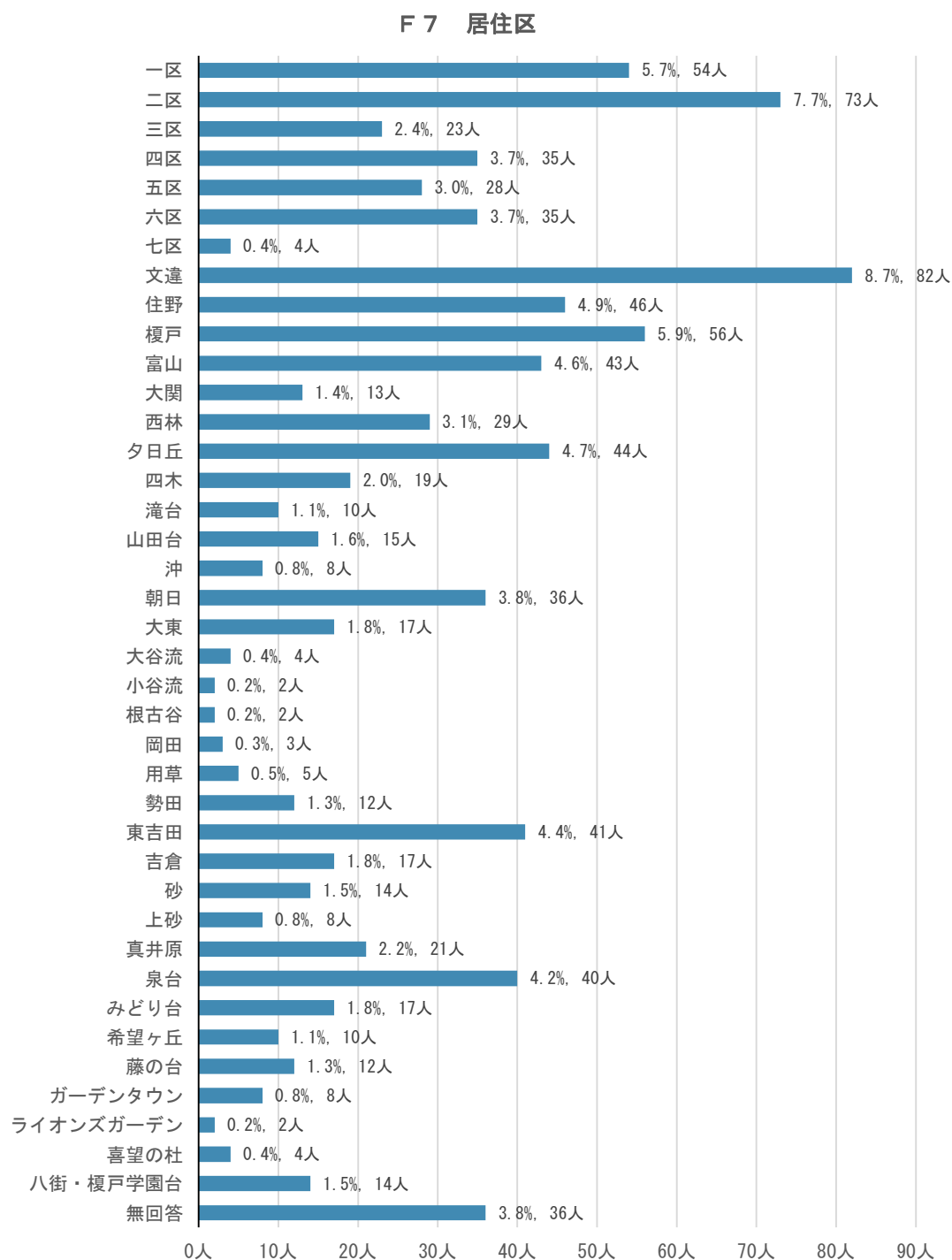
F6. 駅までの交通手段

- ・「自動車」が36.5%と最も多く、次いで「徒歩」が29.4%、「自転車」が17.6%と多くなっている。



F7. 居住区

・「文違」が8.7%と最も多く、次いで「二区」が7.7%、「榎戸」が5.9%と多くなっている。



F8. 居住年数

- ・「20 年以上」が 54.0%と最も多く、次いで「生まれたときから」が 18.0%、「10～19 年」が 10.1%と多くなっている。

